

序 文

私に福音を伝えて下さった宣教師アレマン姉妹と

井出原（清水）順子姉妹に捧げます

お別れの時こそ知らぬ 伝道の機会とならん小さき証も

感謝 百首

感謝
百首

主との距離 求めし時は近くあり 目標のとき遠くありても

神の助けを求めるとき、いつも神は私の近くで支えて下さいました

幾度^{いくたび}も限界^いと思う弱き我 助け叫び^こて刻^{とき}を生くるなり

神の助けがあり一日一日を過ごすことが出来ました

吾のため助けありしは幾度^{いくたび}ぞ めんどりが難^こを守るごとくに

私の生まれた時から今までいつも天の助けがありました

人のため備えし救いの計画を 知りて感謝し喜び生きつ

天の家をはなれこの世に生まれ、使命を終え死んだ後、復活し、
天の家に帰れるように神に従いたいと思います

雪けふる北の都みやこで出会たり 姉妹しまい宣教師伝うる神の教えに

新春の札幌の繁華街でアメリカ人に声をかけられ福音を学びました。
教えて下さった清水姉妹たちは私の模範です

札幌にアカシヤの花咲きし頃 生命いのちかけるは神と決めおり

安保のデモに参加して、これからは一生神に命を捧げたいと思いました

一心に幾山越えて続きたる信仰の道 主の愛感謝す

バプテスマを受けて五十年、家族と共に良い生活を続けることが出来ました

ストーブの明かりを囲み聖書をば読みたる母の証し忘れず

戦後の電力事情の悪い札幌で停電の冬の夜、ストーブの明かりを囲み
母は聖書を読んでもくれました

黄金より貴きものを知りたれば 主に倣うを喜びとせり

少しでもキリストに似た者となりたいと願っています

会堂に大管長は微笑みて 夫の抱く子と握手したもう

ソルトレークを訪問した時ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は
娘と握手をしてくれました

宗教の要石なるモルモン書 長く書き継がれ吾に届きぬ

ジョセフ・スミスをどうして著された、聖書と並ぶキリストを証しする
モルモン書が私にも宣教師から渡されました

母のため許され受けしバプテスマ み旨のときは病のばさる

母の死後身代わりのバプテスマを受けて一年半後、私は脳出血になりました

亡き父母と結び固める祝福を 現世げんせで受けて謝しやす神の愛

母の後父も亡くなり両親と右マヒの私は神殿で永遠の家族となるために

儀式を受けました

われらには聖地せいちが二つ与えられる 伝道地いわきとハワイ神殿と

ハワイ神殿で永遠に結ばれ、いわきで目標であった夫婦宣教師となりました

近き地みやに宮みやを受けたる幸さいわいを 感謝し入る右マヒの吾

体調の良いときに車で神殿に参入出来ます

著者プロフィール

柏倉 朝子（かしくら ともこ）

昭和14年2月23日今田光夫と雅子の6人姉妹の2女として朝鮮国清津にて誕生。父の出征により4才で帰国、終戦後父は無事復員し北海道の札幌、余市に住む。高校卒業後看護学生の時、札幌にて20才で末日聖徒イエス・キリスト教会に改宗。卒業後室蘭、東京で働き、横浜に移り室蘭の教会で知り合った柏倉仁兄弟と結婚。横浜、藤沢、綾瀬に住み3男3女の子に恵まれる。この間横浜、藤沢の教会堂の建築を経験。平成14年8月末、脳内出血により右半身マヒとなる。平成15年3月より1年半仙台伝道部夫婦宣教師となる。伝道の終わり頃短歌を詠みはじめた。

藤沢ステーク藤沢ワード所属

感謝 百首

著者 柏倉 朝子

発行 二〇十四年二月二三日

発行所 株式会社クロスロード

神奈川県川崎市

高津区溝口三丁目十二番十二号

電話 〇四一八二九一五〇六七

装丁者 高砂 薫

印刷所 創栄図書印刷株式会社